

政務活動費収支報告書

2024年 4 月 26 日

八尾市議会議長
田中慎二 様

議員名又は会派名とその代表者名

西川あり

条例第 1 3 条第 1 項の規定により、2023(令和 5)年度政務活動費
収支報告書を提出します。

1 収 入 (単位：円)

項 目	金 額
政務活動費	770, 000

2 支 出 (単位：円)

項 目		金 額
支 出	調査研究・研修費	45, 820
	資 料 作 成 費	0
	資 料 購 入 費	0
	広 報 費	355, 390
	広 聴 費	0
	日 常 活 動 費	0
	人 件 費	0
	事 務 所 費	0
	事 務 費	0
	合 計	401, 210

3 収入支出差引残額（返還額）

368, 790 円

注) 支出が収入を上まわる場合は、残額欄には 0 円と記載のこと。

政務活動費における活動報告書

2023年度の政務活動の内容は、収支報告書のとおりであります、
そのうち、主要な政務活動内容の概要については、別紙のとおりであります
ので条例第14条第1項及び条例施行規程第9条第1項の規定に基づき簡潔
に報告いたします。

議員名又は会派名とその代表者名

西川あり

2023年度政務活動費活用による活動報告書

市政報告書発行と配布

目的

今年度は2回の市政報告を発行しました。個人質問、委員会での議案、決算審査など個人的に重点課題だと思っている、子ども、教育、障がい福祉施策等をより広く周知したいことを主に報告させていただきました。

課題

多くの市民の方にお届けするために、駅頭での配布も心がけています。女性や学生さんの受け取りが少なく感じました。政治になかなか目が向かない忙しい世代や、関心が向きにくい世代にも、手にとってもらえるよう紙面構成の改善や色使いなど研究が必要だと感じています。

2024年1月27日・28日 全国フェミニスト議員連盟ウィンターセミナーin 埼玉

進め！ジェンダー平等～自分らしく生きるために～

テーマ・目的

基調講演「日本政治の女性認識」安藤優子さん（ジャーナリスト・キャスター）

基調講演の安藤優子さんは、テレビでもお馴染みの方で、特にタイトルにも惹かれての参加でした。

女性の社会進出は増えてきてはいますが、国内での社会進出に関して女性がキャリアを持続させることの難易さ、政治における女性議員がなぜ増えないかなどお話しでした。女性が自分自身でガラスの天井を作っている、まだまだジェンダーにおける社会的、文化的な役割を、社会もまた女性自身が意識改革に至っていない現状など交えての講演でした。少数であるけれど、女性の先駆者が大変苦労をして手に入れた、参加する権利を手放さないように、さらに続くであろう後続する女性たちにバトンを手渡していきたいと思いました。

パネル講演「女性首長のリアル」

山川ゆりこ草加市長 柴崎光子和光市長 大澤タキ江長瀬町長

女性議員の数は少ないですが、首長となるともっと少ない現実の中、3人の女性首長が感じたままにお話しいただいた。選挙時や、公務を執行する時に感じたこと、それぞれの地域性はあったとし

ても、変化や新しい気流を望む有権者の意識の高まりを感じたそうでした。今までと違う変化を望まれることがあったとしても、急な展開は不安も招きます。市民との対話から、本当に必要なことをしっかり目標に掲げ、小さな変化を繰り返し行っていくことで、大きな改革につなげられると言うお話は、トップダウンのピラミッド型の階層的でない、横のつながりや連帯を重んじる価値観に変わりつつあるのかなと感じました。関東と本市ではまだまだ開きがあると感じますが、誰もが政治を身近に感じ、参画しているという感覚がどの年代にもあるような施策の展開があればと感じました。

第一分科会「会計年度任用職員の現状と課題」瀬山紀子さん

埼玉大学ダイバーシティ推進センター准教授

2020 年度に国が設立した地方自治体の非正規職員の制度です。任用根拠と処遇改善を目的とされていましたが、実態はどうか現状と課題を学習しました。瀬山さんのお話の中で印象だったのは、窓口を非正規職員が担っているが、直接住民の声を聴き、サポートのできるやりがいのある現場。しかし、そういった仕事に従事できない正規職員がモチベーションを保てずにいると言う現状。どちらにとっても働きやすい職場になっていないことがあるというお話でした。会計年度任用職員さんは、会計年度ごとに雇用される不安定雇用です。多くの人が雇い止めのリスクと隣り合わせで働いている現状は打開していけるのか、非正規であることを望む人がいるから、この働き方があると言われていますが、課題はそこなのか非常に重大だと思いました。

成果・課題

まずは全国的な組織の中で、多くの女性議員や市民が参加し、同じ課題に憂い、取り組み、解決に向けてそれぞれの居場所で励んでいることを知るだけでも、孤独ではない実感がしました。

女性男性と分ける必要はないことも理解はしつつも、現実の政治における不信感は、従来の方法では改革できないことも明確になってきたのではと考えます。多様な考え方を理解し、理解できなければ対話と尊重を重視することを改めて自身の目標にしようと確認できました。

分科会に選んだ会計年度任用職員さんの処遇改善やあり方の見直しなども念頭に今後

本市の現状をさらに注視していきます。